

「チームいいなん」の挑戦 ～未来を切り拓く“地域に根ざした人材”育成～

< 研究開発の背景 >

- ・飯南高校や連携中学校が所在する松阪市の飯南・飯高地域は、近年急激に人口減少が進行
- ・地域住民と学生の交流機会が減少 & 文化・産業等の地域資源の継承が困難
⇒地域の活力低下 & 学校の活力低下
- ・地域を若者で盛り上げようとする活動「道の駅コラボプロジェクト」（有志の課外活動）を開始（H30～ 連携中とも協働）
- ・地域へ飛び出した活動が地域活性化や生徒の成長に有意義 ⇒地域からの期待の高まり
- ・地域を学びの場とした地域課題解決型のキャリア教育の実践を通じて、自ら考え挑戦し、多様な価値観を持つ人々と対話・協働しながら、地域への愛着を持って地域に貢献し、地域の未来を切り拓くことができる、地域に根ざした人材を育成
- ・地域人材に必要な資質・能力として「対話力・追究力・創造力・発信力」を育成

< 令和2年度の目標、取組状況 >

1. 総合学科の柱に位置付けている3科目の再構築

①「産業社会と人間」（総合学科必修科目）の再構築（1年）

⇒地域を学びの場とした活動を自ら模索・提案する

1学期：「地域を知る」 2学期：「地域への理解を掘り下げる」

3学期：「地域課題の解決へ向けた『かけ算プロジェクト』に取り組む」

⇒フィールドワーク（1・2学期）を実施し、魅力マップづくり、地域と自らの力を掛け合わせる「かけ算プロジェクト」（活動成果発表会）を行った

②「キャリアデザイン」（学校設定科目）の再構築（2年） 令和2年度の重点

⇒コンソーシアムとの協働によりコロナ禍で実施したキャリアインターンシップ、昨年度に引き続き商工会議所と連携した「高校生と地元企業との交流会」を開催

③「いいなんゼミ」（総合的な探究の時間）の再構築（3年）

⇒地域を題材に課題研究に取り組む生徒をゼミ内で協働させながら探究活動を展開
⇒クラウドファンディングを利用し、文化祭で打ち上げ花火を企画・実施
地元企業とコラボして「木の手帳」を商品開発 等が代表的な取組

2. 4系列の特色を活かした地域貢献のための学習活動の試行

⇒【介護福祉系列】菓子工房の販売協力を行い、障がい者支援を実体験

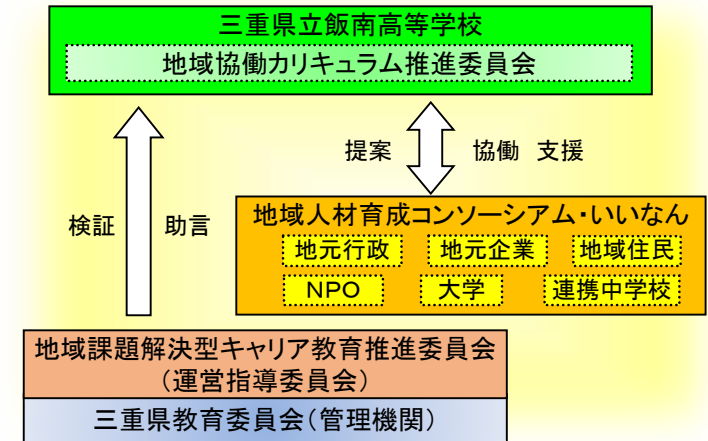
【コンピュータ系列】地域からの依頼による会報の表紙絵制作

【総合進学系列】地域の特産物を英語で紹介する活動から地域を見つめ直す機会へ

3. 探究的な学びを進める授業改善

⇒外部講師を招へいした研修会（学び合いのスキル、振り返りの言語化等）を実施

< 研究開発の実施体制 >



< 主な成果と課題 >

学年末に実施した2学年生徒への自己評価アンケートでは、1学年の時より対話力73.7%→97.1%、追究力61.3→95.7%、創造力64.5%→94.3%、発信力60.0%→97.1%とかなり上昇し、地域を学びの場とした活動を通じて、力が身に付いたと生徒自身が実感できた

1年次「産業社会と人間」では、フィールドワーク先の選択から連絡まで、すべて生徒自身が行い、昨年度には想定出来ないようなテーマでの学びも増え、より主体的な学びの形がみられた

2年次「キャリアデザイン」については、コロナ禍でもコンソーシアムとの協働により地域でのキャリアインターンシップを実施できた

企業見学や修学旅行を含めた体験で自己の在り方や生き方を見つめ、他地域と自地域との比較も行いながら、対話力・追究力・創造力・発信力を高めていきたい。また、2年次の「プレいいなんゼミ」から探究の伴走者と協働し、3年次のいいなんゼミにつなげたい

4系列の学習活動は、昨年度の地域の学びが連動して、新たな動きとなり、生徒の学びがより多様になり、自然と教科横断的な学びとなって生徒が成長していった